

令和4年12月7日（水） 午前10時～@佐渡市議会

◎佐渡ヶ島（SDGs）集落ツーリズム構想の実現に向けて
【しごとづくり】【ひとづくり】【まちづくり】の計画に関する確認と提案

(1) SDGs未来都市に選定された佐渡としてのプライドについて

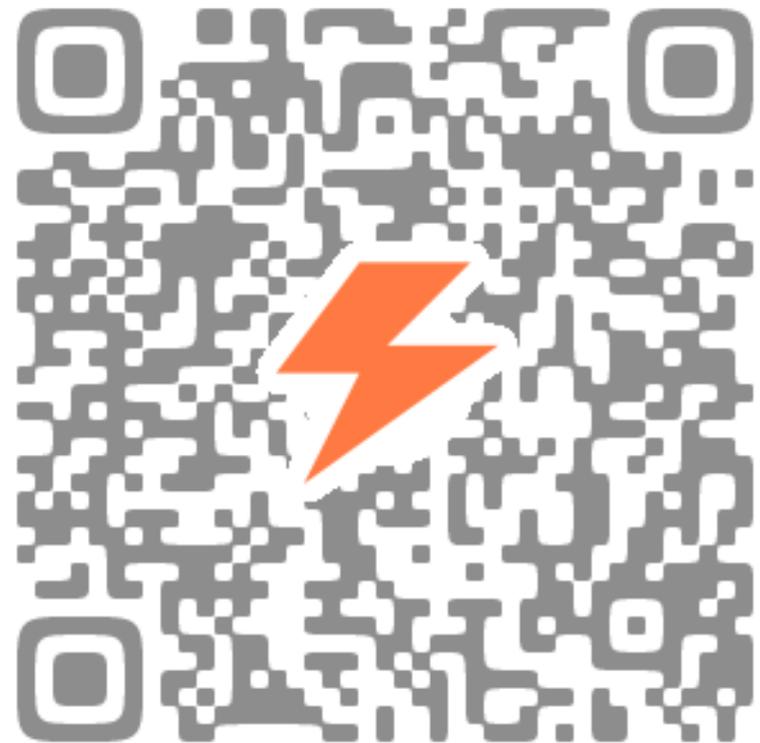
- ① SDGs（持続可能な開発目標）ツーリズムの推進
- ② DX（デジタルトランスフォーメーション）の進捗状況
- ③ GX（グリーントランスフォーメーション）の進捗状況
- ④ 「佐渡島（さど）の金山」の世界文化遺産登録の状況と今後の方針

(2) 持続可能な地域づくり・学校づくりについて

- ① 市民との意見交換会を経た佐渡市小学校・中学校再編統合計画
- ② 小中学校の小規模特認校制度の導入と学区再編の可能性
- ③ コミュニティスクールとGIGAスクール構想の成熟化
- ④ マイプロジェクトによる課題解決型探求学習の推進

(3) 産官学金労言（さんかんがくきんろうげん）連携の推進について

- ① 佐渡島（SDGs）天・地・人サイエンスプロジェクト2022の成果・評価
- ② 宇宙甲子園（高校生を対象とした実践的な理工系教育）の誘致
- ③ 廃校舎等遊休公共施設の利活用による大学・企業誘致や地域の拠点づくり
- ④ 空き家再生による住まい・事業所・宿泊施設・飲食店等への利活用の推進
- ⑤ 1次2次3次産業の振興と総務省特定地域づくり事業協同組合制度の導入
- ⑥ リビングラボ（生活空間まるごと研究所）佐渡ごとラボ（佐渡まるごと研究所）



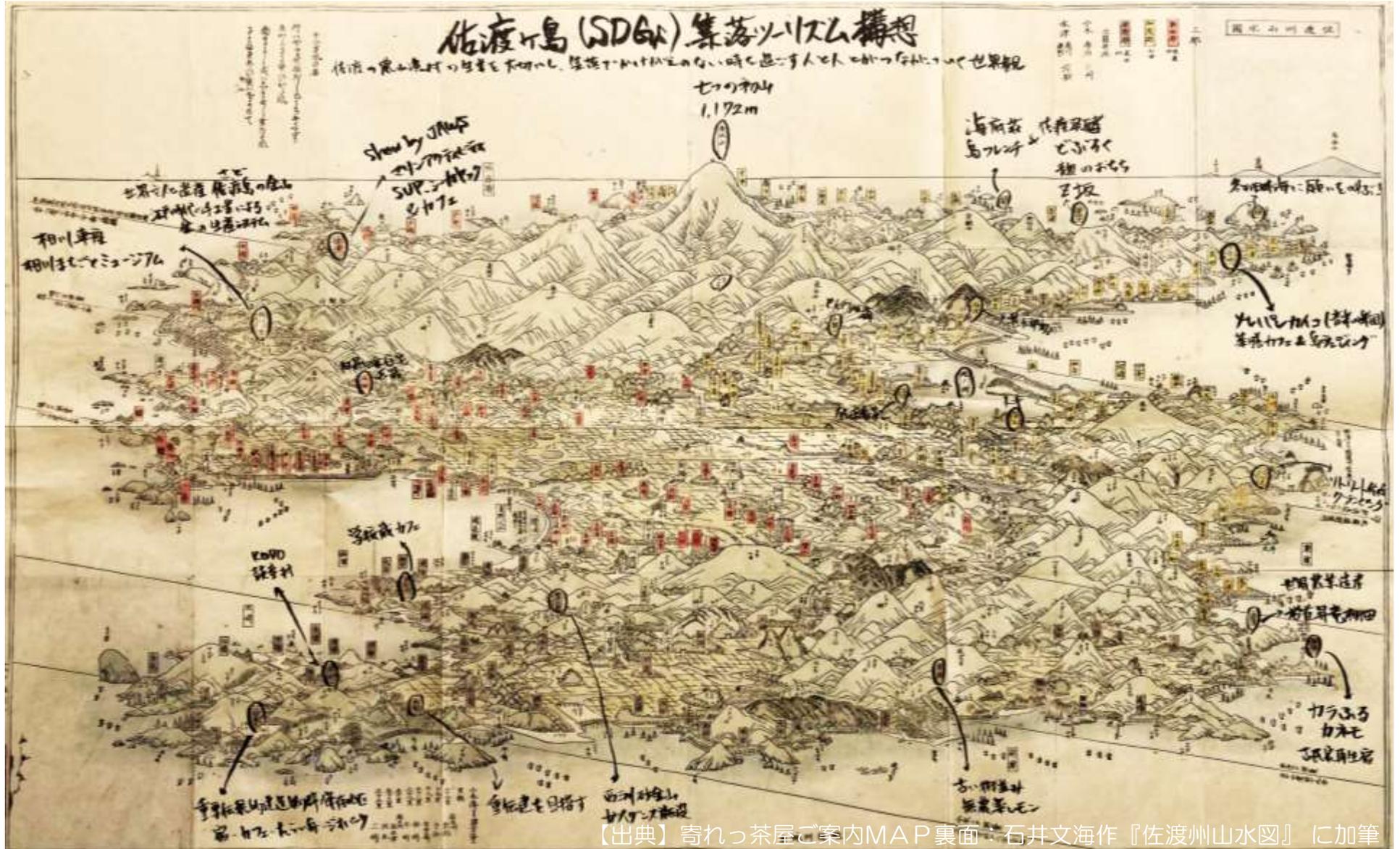
http://hiroshimurooka.com/documentandscript_202209

令和4年12月定例会 一般質問資料

三度のメシより佐渡が好き！！！！ 政風会 代表 室岡啓史

▼ 『佐渡ヶ島 (SDGs) 集落ツーリズム』 構想

佐渡の農山漁村の生業を大切にし、集落でかけがえのない時を過ごす人と人がつながっていく世界観



【出典】 寄れっ茶屋ご案内MAP裏面・石井文海作『佐渡州山水図』に加筆

▼SDGs 未来都市に選定された佐渡のプライド

◆SDGsとは・・・

持続可能な開発目標のことで、Sustainable Development Goalsの略。2015年に国連本部で日本を含む193の加盟国の合意の下で採択された「世界を変革するための17の目標と169のターゲット」のこと。持続可能性を地球規模で考えた時に、非常に重要な目標であり、産官学金労言連携により、2030年までSDGsの推進に一丸となって力をいれて取り組んでいる状況にある。

◆佐渡ヶ島のクロスワードパズル

Sustainable Shima
 a Digital X Green X a
 佐渡ヶ島
 d S
 未来都市

サステナブル(持続可能性)
 デジタルトランスフォーメーション
 グリーントランスフォーメーション



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



【出典】国際連合広報センター「SDGs」ガイドライン

- ◆2022年5月20日に佐渡市がSDGs 未来都市に選定！
 人が豊かにトキと暮らす黄金の里山・里海文化、佐渡～ローカルSDGs 佐渡島、自立・分散型社会のモデル地域を目指して～
 ⇒島の文化が環境・経済・社会を刺激し合う基盤を創っていく
- ①SDGs (持続可能な開発目標) ツーリズム
 - ②DX (デジタルトランスフォーメーション)
 - ③GX (グリーントランスフォーメーション)
- 佐渡ヶ島こそ推進すべし!!!

▼DX（デジタルトランスフォーメーション）



◆DX（デジタルトランスフォーメーション）とは・・・
「ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」という仮説。 【出典】ウィキペディア

▼スマートフォンを活用したDXの事例

スマートフォン下部の丸いボタンを長押ししたり、マイクマークをタップして知りたいことを話しかけると人工知能（AI）が音声で読み上げ、教えてくれる機能がある。

⇒知識に関する疑問は、これだけでほぼ解決される。

「明日の天気を教えて」「佐渡汽船時刻表を教えて」など

⇒大人から子どもまでこの機能を教えてあげるだけでも

佐渡市民のDX推進に貢献することができると考える。

▼「GXって何？」とスマートフォンに話しかけた場合

GXって何

GXとは、企業における温室効果ガスの排出源である化石燃料や電力の使用を、再生可能エネルギーや脱炭素ガスに転換することで、社会経済を変革させることを指します。

▼「宇宙甲子園」とスマートフォンに話しかけた場合

宇宙甲子園は、2005年から行われている日本の高校生を対象とした缶サイズの模擬人工衛星やモデルロケットを使用した理工系の科学競技会。

▼「なぞかけ」とスマートフォンに話しかけた場合

※その場の空気を読むレベルではまだないのか！？

※「佐渡と掛けて」などお題にはまだ答えられない

ととのいました。

スマホとかけて、髪の毛と解く。その心は？

だんだん薄くなってきています。

ととのいました。

Webサイトとかけまして、バーゲンの日と解く。その心は？

どちらもドットコム（どっと混む）でしょう。

▼「もう疲れたよ」とスマートフォンに嘆いた場合

※慰めてはくれるものの心理的に救われはしない！？

人間にも機械にも、時には充電が必要です。少し休んでください。

【出典】iPhoneのSiri機能を活用した場合の画面

▼佐渡市小学校・中学校再編統合計画の意見交換会



① 小学校

再編前		再編案		
学校名	R 3 <small>児童数(学級数)</small>	前期 (R 4~R 8)	R 9 <small>児童数(学級数)</small>	後期 (R 9~R 13)
1 両津小学校	113 (6)	両津小・河崎小 (再編統合協議)	120 (6)	学校間連携
2 河崎小学校	87 (6)		両津小 72 河崎小 48	
3 加茂小学校	174 (6)	学校間連携	181 (8)	加茂小・両津吉井小 (再編統合協議)
4 両津吉井小学校	65 (5)		加茂小 133 両津吉井小 48	
5 内海府小学校	3 (1)		3 (2)	
6 前浜小学校	12 (3)		13 (3)	
7 相川小学校	77 (6)	相川小・七浦小・金泉小 (再編統合協議)	108 (6)	学校間連携
8 七浦小学校	36 (4)		相川小 63 七浦小 26 金泉小 19	
9 金泉小学校	41 (4)			
10 高千小学校	25 (3)		21 (3)	
11 河原田小学校	157 (6)	河原田小・八幡小 (再編統合協議)	215 (9)	学校間連携
12 八幡小学校	58 (6)		河原田小 158 八幡小 57	
13 二宮小学校	162 (6)		166 (7)	
14 金井小学校	355 (13)		277 (11)	
15 新穂小学校	82 (6)	新穂小・行谷小 (再編統合協議)	101 (6)	学校間連携
16 行谷小学校	66 (5)		新穂小 68 行谷小 33	
17 真野小学校	203 (7)		144 (6)	
18 畑野小学校	168 (6)		128 (7)	
19 松ヶ崎小学校	4 (2)		13 (3)	学校間連携
20 羽茂小学校	126 (6)	学校間連携	103 (6)	羽茂小・赤泊小 (再編統合協議)
21 赤泊小学校	56 (5)		48 (5)	
22 小木小学校	99 (6)		62 (6)	

② 中学校

再編前		再編案			
学校名	R 3 <small>児童数(学級数)</small>	前期 (R 4~R 8)	R 9 <small>児童数(学級数)</small>	後期 (R 9~R 13)	R 14 <small>児童数(学級数)</small>
1 両津中学校	133 (5)	学校間連携	101 (3)	学校間連携	68 (3)
2 内海府中学校	4 (1)		1 (1)		1 (1)
3 前浜中学校	6 (2)		5 (1)		6 (2)
4 相川中学校	91 (4)	学校間連携	68 (3)	学校間連携	54 (3)
5 高千中学校	18 (3)		9 (2)		10 (2)
6 佐和田中学校	215 (7)		168 (6)		189 (6)
7 金井中学校	155 (6)		183 (6)	金井中・新穂中 (再編統合協議)	162 (6)
8 新穂中学校	79 (3)		67 (3)		金井中 119 新穂中 43
9 真野中学校	113 (3)		96 (3)	真野中・畑野中 (再編統合協議)	124 (5)
10 畑野中学校	88 (3)		86 (3)		真野中 63 畑野中 61
11 松ヶ崎中学校	13 (2)		1 (1)	学校間連携	8 (2)
12 南佐渡中学校	113 (3)	南佐渡中・赤泊中 (再編統合協議)	138 (5)		学校間連携
13 赤泊中学校	35 (3)		南佐渡中 110 赤泊中 28	南佐渡中 75 赤泊中 22	

【出典】佐渡市小学校・中学校再編統合計画パブリックコメント
<https://www.city.sado.niigata.jp/site/publiccomment/41025.html>

◆意見交換会後の佐渡市小学校・中学校再編統合計画

5月～7月まで全31か所での市民との意見交換会は、延べ270名の参加があり、平均8.7人のみ。最小0人～最大47人の参加という状況であった。

内閣府は令和5年度の早い時期に「こども家庭庁」を設立予定。佐渡でも「こどもまんなか」という理念が最重要であると考える。



▼小中学校の小規模特認校制度の導入可能性は？

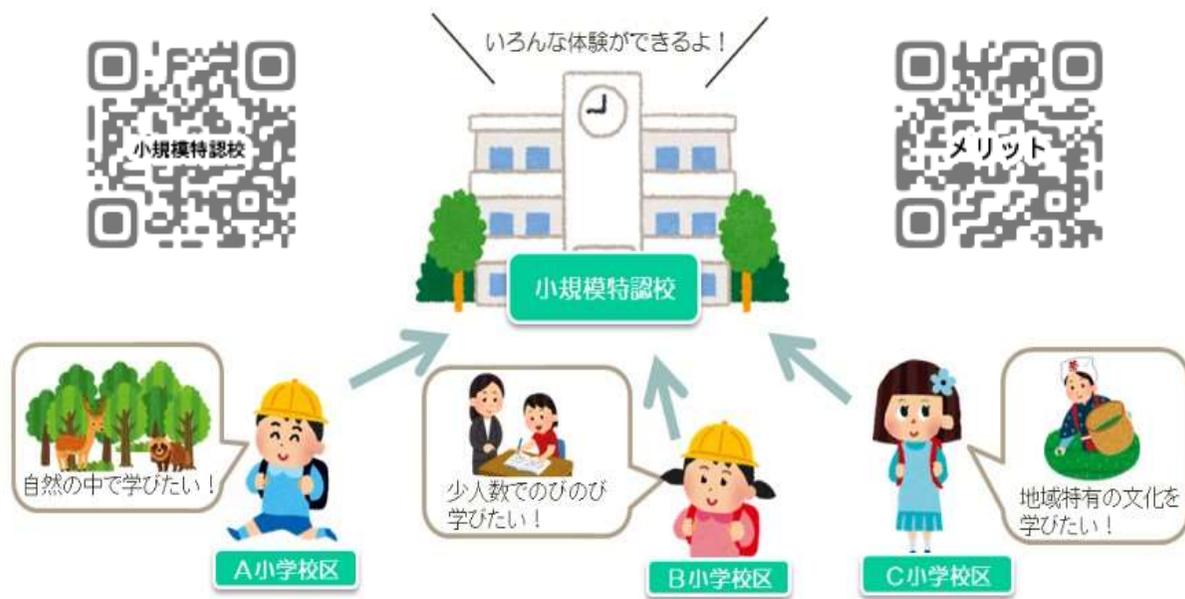


地域の文化や自然に触れよう！「小規模特認校」

小規模特認校とは

地域の文化・自然に触れる体験学習や、少人数であることを生かしたきめ細やかな学習指導などを行う葉梨西北小・瀬戸谷小・朝比奈第一小の3校を「特認校」として指定し、市内の児童が居住する地域で指定された小学校以外の特認校への入学・転学を認める制度です。

「特認校」への通学を望む児童・保護者への門戸を開くことで「特認校」は児童の増加による教育活動の広がりや、地域のさらなる活性化が期待できます。また、同制度で就学した児童が卒業し、中学校に入学する際には、希望により在籍特認校学区の中学校に入学できます。



【出典】藤枝市：地域の文化や自然に触れよう！「小規模特認校」

https://www.city.fujieda.shizuoka.jp/soshiki/kyoiku/kyoikuseisaku/keikaku_torikumi/17510.html

◆小規模特認校のメリット、デメリット 〔メリット〕

・小さな集団で過ごすことで、人間関係が硬直化していたが、他の地域の児童生徒と接することで、表現力を向上させたり、人間関係を再構築するなど、学級や学校を活性化しやすい。

・小規模校であることで、学習指導や生活指導等においてきめ細かな指導を行うことができる。

・保護者や地域住民との連携により、地域の特性を活かした特色ある教育活動を行うことができる。

・選択を認めることで、保護者や児童生徒の希望に沿うことができる。

〔デメリット〕

・多くの希望者数は望めず、根本的に学校規模等の適正化を図ることは難しい。

・クラス替えができない。

・通学区域が広範囲になるため、児童生徒の通学の負担が発生する。

・校区外から通学している子どもにとっては、自分の住んでいる地域での友人関係が希薄になりやすい。

【出典】八尾市：小規模特認校のメリット、デメリット

<https://www.city.yao.osaka.jp/cmsfiles/contents/0000007/7209/tokuninikansentaku.pdf>

新時代における先端技術を効果的に活用した学びの在り方 ～新時代に求められる教育～

Society5.0時代の到来

求められる能力

- 飛躍的な知の発見・創造など新たな社会を牽引する能力
- 読解力、計算力や数学的思考力などの基礎的な学力

社会構造の変革

- 人間一人一人の活動に関するデータ（リアルデータ）活用による革新的サービス
- ビッグデータ・人工知能(AI)の発達による新たなビジネスの拡大

雇用環境の変革

- 単純労働を中心に、人工知能(AI)やロボティクスの発展による影響
- 人間は、創造性・協調性が重要な業務や非定形な業務を担う

子供たちの多様化

- 他の子供たちとの学習が困難
- ASD、LDなどの発達障害
- 日本語指導が必要
- 特異な才能を持つ など

2020年9月
佐渡市教育大綱
○今後の方向性

- 「確かな学力の育成」
 - 「豊かな人間性や社会性の育成」
 - 「健康増進・体力向上」
 - 「キャリア教育の推進」
 - 「教育環境の整備」
- 等に取り組みます。

対象を幼保、小、中、高、大学生等とし、教育委員会と市長部局が連携して学校教育の充実に努めます。



2021年
新学習指導要領
「探求的な学習」
という文言が、
小中高で共通して
表記された！

連携

探求 マイプロジェクト

【出典】文部科学省：新時代の学びを支える先端技術活用推進方策（最終まとめ）に加筆

宇宙甲子園とは

※形式にこだわらず、佐渡でできる航空宇宙関係の離島版教育イベントを佐渡市、佐渡市教育委員会、佐渡教育コンソーシアム、佐渡工業会等と連携して実現できないか？

宇宙甲子園とは？

高校生が模擬衛星やロケットの打ち上げにチャレンジし、宇宙への実践的な学びを経験する“宇宙の甲子園”です。



01 缶サット甲子園

クールな空き缶サイズの模擬衛星を飛ばして競う



02 ロケット甲子園 ※

卵を載せたロケットの打ち上げ高度・滞空時間を競う

※中学生も含む



宇宙甲子園
SPACE KOSHIEEN

03 気球甲子園

宇宙の入口成層圏にみんなでチャレンジ



04 天測甲子園 ※

天文・地文の謎を自作装置でみんなと解き明かす

※中学生も含む

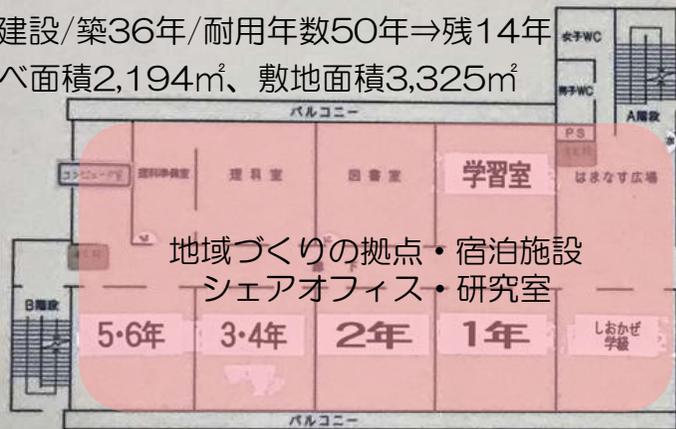


▼廃校舎等遊休公共施設の利活用@旧両尾小学校



◆旧両尾小学校：両津港から7.7km、車で約13分の好立地

- 昭和61年建設/築36年/耐用年数50年⇒残14年
- RC造：延べ面積2,194㎡、敷地面積3,325㎡

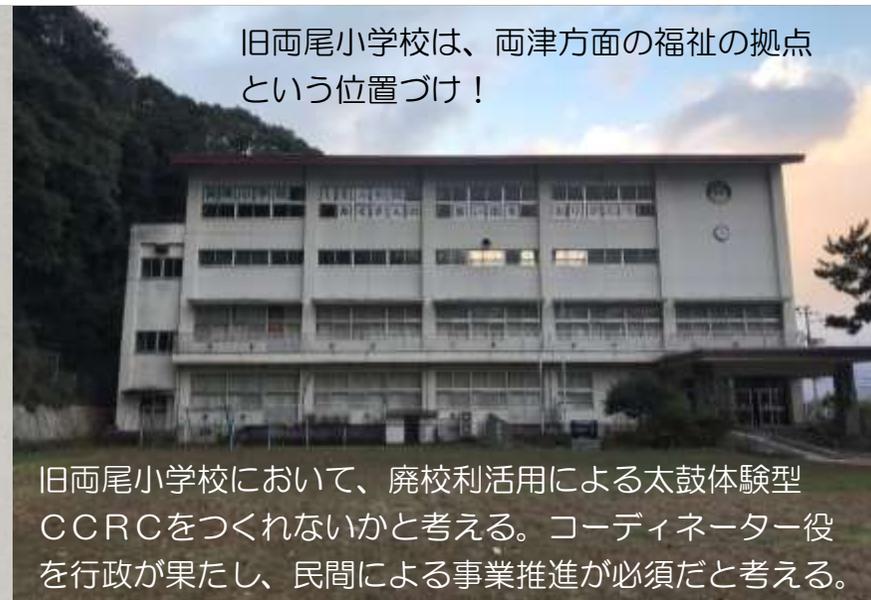


2階

CCRCとは「Continuing Care Retirement Community」の略称で、高齢者が健康な段階で入居し、終身で暮らすことができる生活共同体のこと。



1階



3階

建物、土地、太鼓の民間への無償譲渡は可能か？

◆ 『小学校区』 というコミュニティを大切に

佐渡の集落での活動を永続的に残すことができないかと考えます。
そこで、RMO（地域運営組織）〇〇小学校区応援団（仮称）を結成し、
下記6点に取り組む提案です。※団体は、NPOや一般社団法人等を想定



① 集落毎の字会計や各種行事案内資料の統一フォーマット化、データ化

- 【A】 小学校区内の数集落の字会計（※集落情報は、集落毎で厳重に要管理）
- 【B】 ムラ歩き事業会計（集落の魅力を発掘し、ムラ歩きガイドを行う等）
- 【C】 簡易宿所事業会計（古民家を再生し、宿泊施設に活用する等）

② ムラ歩き事業⇒【B】

佐渡ヶ島（SDGs）集落ツーリズム構想実現のため、さどんぼ/あるかんか佐渡/ふれあいガイド等の取組みを各小学校区でも行う。また、有料の体験コンテンツを複数発掘し、集落の魅力を体験できるようにする。

③ 簡易宿所事業⇒【C】

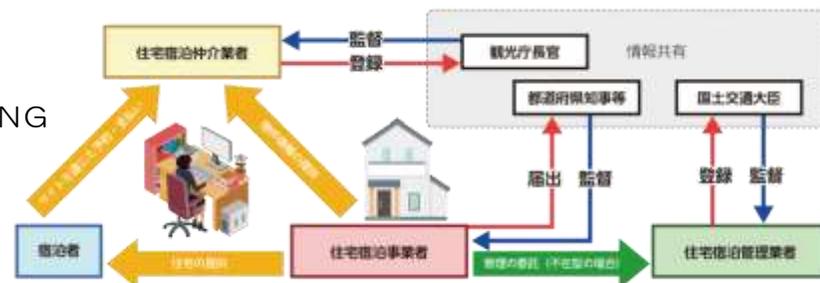
空き家利活用、古民家再生、宿泊を伴う滞在型観光を推進する。

※簡易宿所は、食材提供やケータリング（仕出し）はOK、その場で作られたお料理提供はNG

※住宅宿泊事業法（平成29年6月に成立した民泊新法）年間提供日数の上限は180日（泊）

④ 各地郷土博物館の利活用

郷土博物館機能に加え、RMO事務局の拠点としても活用する。



【出典】 minpaku民泊制度ポータルサイト

⑤ 集落産のお土産の開発・製造・販売

島内外の好事例を参考にお土産を開発して、民間企業推進の元で製造・販売する。※販売は、②～④等で行う。

⑥ 〇〇小学校をコミュニティスクールとして、地域と連携、地域づくりの拠点化や大学・企業の誘致へとつなげる

学校運営協議会制度において、総合学習（学校教育）＆生涯学習（社会教育）に取り組む。

▼佐渡の空き家3,000棟を燦然(さんぜん)と輝かす!



シンポジウム@金井能楽堂に島内・島外100名超が参加!

全国大会の佐渡開催を足掛け4年で実現させました!

日本民家再生協会では、毎年「民家フォーラム」を開催しております。第22回目は本年は佐渡市で開催します。期は土曜、日曜と夜間開催など、中絶までに政界に敗れた民家再生協会が活動してきた歴史があり、また土曜前夜は語り部活動の活動地でもあった。この日には、民家文化、町人文化、農村文化、山村文化と多岐な文化が残ります。能楽や寺社、民家住宅、船大工の家など、パラスティックに訪れた建築が多くあり、目の覚めるほど素晴らしいです。佐渡を舞台に、建築技術や文化継承、空き家問題について考えるシンポジウムを行います。魅力あふれる佐渡へぜひお越しください。

シンポジウム

【参加費】1,000円
※佐渡市市民は無料、当日「佐渡市民サービスカード」提示ください。
【会場】金井能楽堂(佐渡市能楽堂町中野371)

13:00～開場、受付 13:30～開演式
13:40～開演(佐渡市市長出席)
14:10～一般公開(講演開始時間) 14:25～休憩
14:30～パネルディスカッション「民家が持つつながり」のつなごう
【コーディネーター】豊田真由子(新潟大学産業資源共生科学センター教授)
【パネリスト】宮野健太郎(公益財団法人助産文化財団 専務理事)
池田千鶴子(評論家) / 伊藤正博(建築士事務所)
佐野礼美(佐渡観光コンベンションセンターコーディネーター)
川上西良(日本民家再生協会佐渡支部、佐渡ホテル協議会代表)
14:50～閉演式 15:30終了

お問い合わせ・お申込みについては、裏面、またはウェブサイトをご覧ください。

特定非営利活動法人 JAPAN SHINKA RENSHU
日本民家再生協会
JAPAN SHINKA RENSHU
〒952-8585 佐渡市能楽堂町中野371-1
TEL:0954-8214-1042 FAX:0954-8214-1042
http://www.jrnk.jp

空き家利活用の機運を醸成! 2030年(SDGs最終年)頃には、 検証のフォーラムを開催予定です。

集落ツーリズム@国指定の重要文化財『北條家』等を見学!

▼【総務省】特定地域づくり事業協同組合制度を！

人口急減地域の課題

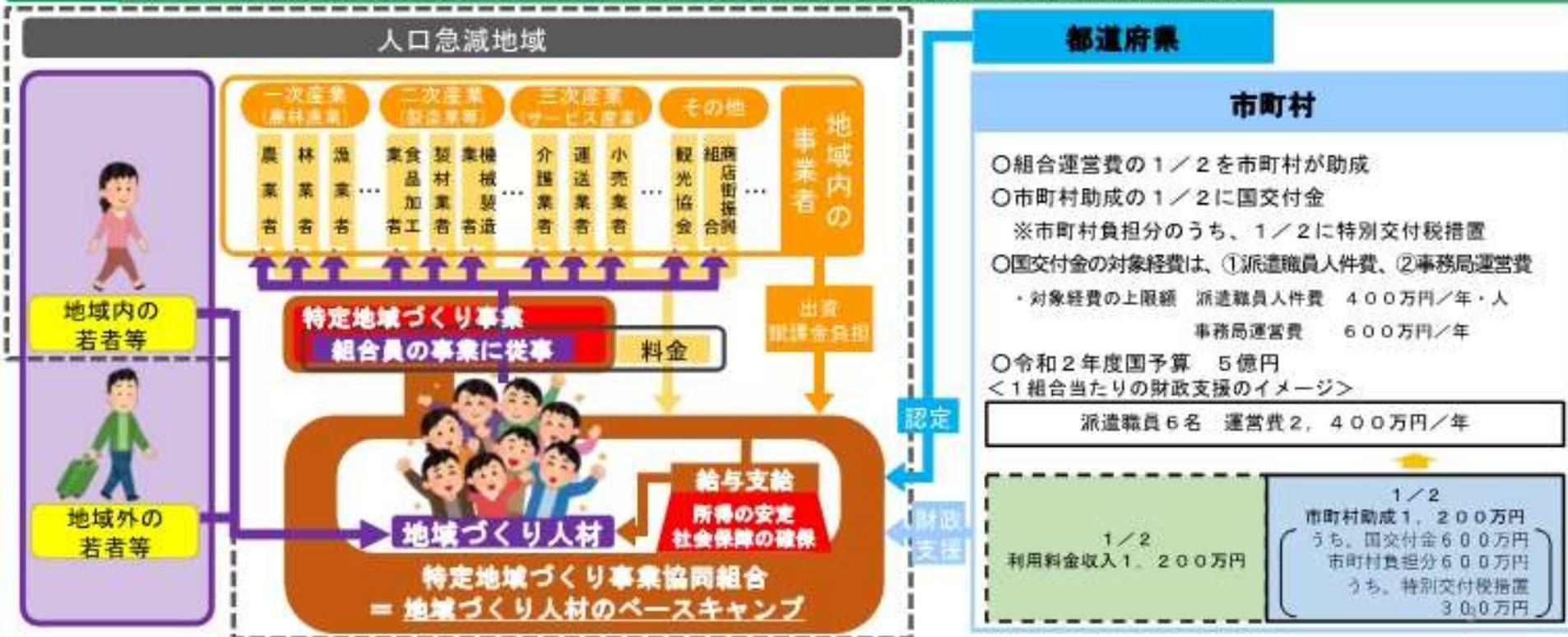
- ・事業者単位で見ると年間を通じた仕事がない
 - ・安定的な雇用環境、一定の給与水準を確保できない
- ⇒人口流出の要因、U/Iターンの障害

特定地域づくり事業協同組合制度

- ・地域全体の仕事を組み合わせて年間を通じた仕事を創出
 - ・組合で職員を雇用し事業者に派遣（安定的な雇用環境、一定の給与水準を確保）
- ⇒地域の担い手を確保

制度概要

対象地域：人口急減地域（過疎法に基づく過疎地域及び過疎地域と同程度の人口減少が生じている地域）
 対象団体：中小企業等協同組合法に基づく事業協同組合
 対象事業：マルチワーカー（季節毎の労働需要等に応じて複数の事業者の事業に従事）の派遣等
 認定手続：事業協同組合の申請に基づき、都道府県知事が認定（10年更新制）
 特例措置：労働者派遣法に基づく労働者派遣事業（無期雇用職員に限る）を許可ではなく、届出で実施することが可能
 財政支援：組合運営費の1/2を市町村が財政支援（市町村負担の1/2を国庫補助）
 根拠法：地域人口の急減に対処するための特定地域づくり事業の推進に関する法律<令和2年6月4日施行>



【出典】総務省：特定地域づくり事業協同組合制度 https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/tokutei_chiiki-dukuri-jigyuu.html

▼リビングラボ(生活空間まるごと研究所)の考え方

◆リビングラボとは、研究開発の場を人々の生活空間の近くに置き、生活者視点に立った新しいサービスや商品を生み出す場所を指す言葉。⇒佐渡ごとラボ(仮称)としては、佐渡市×埼玉県入間市、東京都国分寺市(姉妹都市)などの連携が可能ではないか？

【目的・効果】

- 湯沢市と横浜市が抱える地域課題を共有し、共創による課題解決によって持続可能なまちづくりの構築を目指す。
- 企業同士の複業や協働事業などにより、企業の経営力強化や新事業創出につながる効果が期待できる。

【事業内容】

- 横浜リビングラボにて、横浜市民や企業などが湯沢市の地域課題解決をテーマとしたワークショップを実施。
- 湯沢市でのフィールドワークで、地域課題の現場に触れつつ、課題解決に取り組む湯沢市民や企業との関係性を構築。
- 横浜リビングラボが、湯沢市民や企業に対して地域課題プロジェクトを提案、協働による実施。

【特筆すべき事項】

- 地域課題解決に向け、ビジネス手法で様々なソリューションを取り入れることにより、継続的な関係性を構築する。
- 地方と都市が、双方の地域課題を、双方の地域住民や企業が共有し解決し合う。



ラボ

